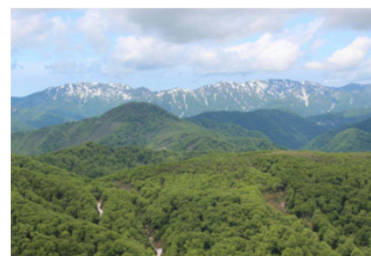


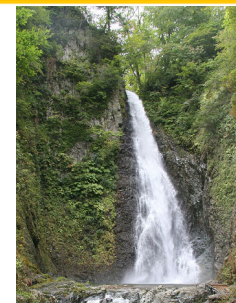
白神山地は、青森県と秋田県の県境にまたがる標高100mから1,000m以上に及ぶ山地帯の総称であり、人為の影響をほとんど受けていない原生的なブナ天然林が東アジア最大の規模で分布している。ブナの純林であるとともに500種以上の多種多様な植物が生育し、ニホンカモシカやツキノワグマ等14種の中大型哺乳類、イヌワシやクマゲラ等94種の鳥類、約2,000種の昆虫類などが生息する。我が国の固有種であるブナを中心とした森林生態系の博物館といえる。

白神山地の景観

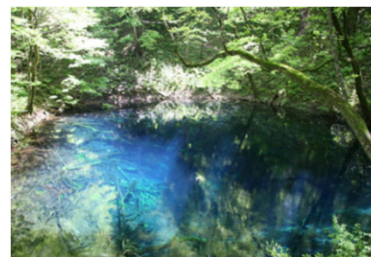
- ・二ツ森：ブナ林を通過して開けた頂上に出ると白神山地を一望できる。
- ・暗門（あんもん）の滝：一の滝、二の滝、三の滝と連なり、新緑や紅葉等、四季折々の姿を楽しめる。
- ・十二湖：豊かな森と33の湖沼群からなり、青池は鮮やかなコバルトブルーの姿が神秘的。
- ・岳岱（だけだい）：ブナと苔むした巨岩、転石との調和が美しい。推定樹齢400年の巨木ブナが存在。



二ツ森 ブナ林を一望



暗門の滝 一の滝



十二湖 青池



岳岱 400年ブナ

※世界自然遺産区域外

白神山地に生息する野生生物

- ・ ツキノワグマ
- ・ ニホンカモシカ
- ・ ニホンサル
- ・ クマタカ
- ・ イヌワシ
- ・ クマゲラ



イヌワシ



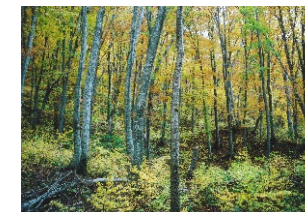
ニホンカモシカ

ブナの四季変化

ブナ林は四季の変化とともに様々な姿を見せる。



新緑



紅葉



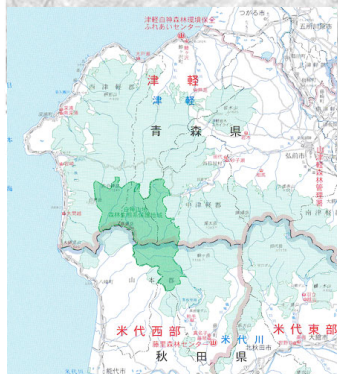
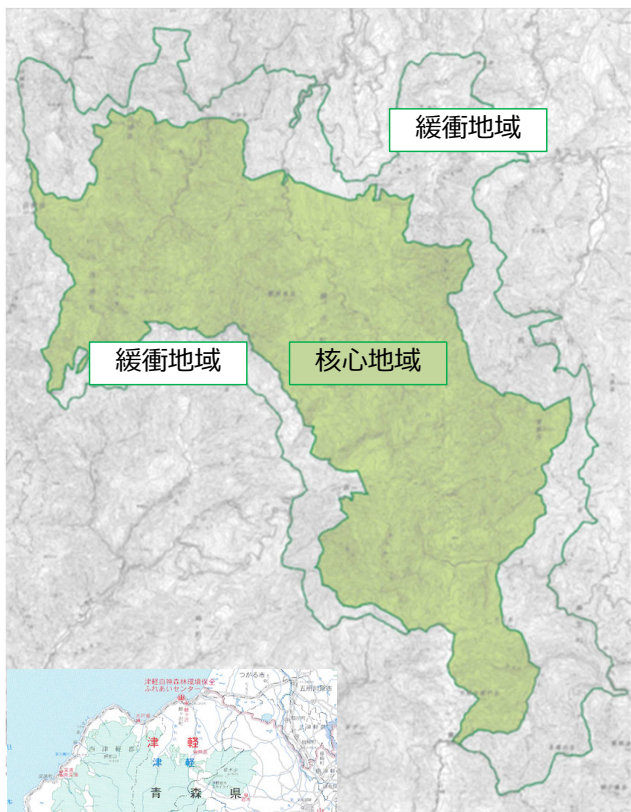
落葉



積雪

「白神山地」における林野庁の取組

- 世界遺産登録（1993（H5）年）に先立ち、1990（H2）年に約1万7千haの国有林野（世界自然遺産地域全域）を「森林生態系保護地域」に設定。
- ブナ林生態系のモニタリング、二ホンジカによる食害対策等により適切に保護・管理。
- 地域と連携した自然再生活動や森林環境教育、巡視活動による保護意識の普及啓発を実施。



遺産地域面積
 ■ 核心区：10,139ha
 ■ 緩衝地域：6,832ha

遺産地域における
 国有林野面積
 : 16,971ha

核心区、緩衝地域ともに遺産地域の全域が国有林野

ブナ林生態系のモニタリング

- 遺産地域内に調査区を設定し、ブナ林の動態や積雪深の変化、入り込みによる植生への影響や林内気温の変化、哺乳類の生息状況等をモニタリング



モニタリング調査区



積雪深計の設置

地域と連携した自然再生活動

- 世界遺産地域周辺のスギ人工林において、地域のボランティア団体等と連携し、近隣から採取した苗木の植栽等による広葉樹林化を実施



活動の様子

二ホンジカによる食害対策

- 2017（H29）年に核心区において初めて二ホンジカの生息を確認
- 食害による森林生態系への影響が懸念されるため、関係機関と連携し、自動撮影カメラの設置等により監視体制を強化



自動撮影カメラの設置

二ホンジカ確認地点(平成30年12月20日現在)

- 平成30年度確認地点
- 平成26~29年度確認地点
- 世界遺産核心区
- 世界遺産緩衝地域
- 県境
- 市町村界

